

## 平成 29 年度 復興と未来を担うグローバルリーダー育成推進事業 福島大学研修

平成 29 年 9 月 15 日（金）、本校南体育館において、第 1 学年全生徒を対象に福島大学研修を開催しました。今年度はうつくしまふくしま未来支援センターより間野 博 特任教授をお招きし、『原発事故避難指示区域の復興まちづくり』と題してご講演いただきました。

間野先生は都市計画がご専門で、阪神・淡路大震災後は多数の地域でコンサルタントとして復興まちづくりに参画されました。東日本大震災後は、原発事故被災地で多くの自治体の復興まちづくりをサポートしておられます。

今回の講義では、同じく東日本大震災の被災地である岩手県や宮城県と比較しながら、福島県の被害、現状、復興への課題の特異性について教えていただきました。

生徒達にとっては、あらためて復興を自分の問題として捉え、考える機会となりました。講義の冒頭で先生が「疑問に思ったことが探求の始まり」とおっしゃったように、今回の講義を通して生徒達がたくさんの問題意識を持ち、自身の探求活動に活かしていけるものと期待されます。



### 生徒感想

多くの被害が出た東北の県の中でも、特に県外避難者や震災関連死は福島が一番多いことを知り、原発事故の存在の大きさがよくわかった。また、原発事故後の被害者や賠償、住宅面などでまだ多くの解決しきれていない問題があることが分かり、これからどうなっていくのか気になった。これから避難解除が進められていく中で、帰還を望む人がほんのわずかしかないのに、町、市の整備をし続けてもいいのか、他に使う場所があるのではないかとも思った。これからの未来を切り開いていける人を目指したい。

6年半も前の出来事で、県内に住んでいても風化してきてしまった出来事の、その後を知ることができて良かった。避難をしている場所の問題、教育する上での問題、害獣、建物の老朽化など、年を経て出てきている様々な課題を長い目で見て解決していかなければならないのだと知った。また、住民を受け入れる用意ができて、戻りたいと希望する人は少なく、戻った後の過疎化、高齢化も課題になるようだった。自分でも風化させることなく、これから被災地について目を向けていこうと考えた。